

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会議名	第4回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会				
日時	平成27年3月17日（火） 午後1時30分～3時15分	場所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」		
出席者	委員 員長：多田 実、副会長：石井 好二郎 委員：前田 義之、吉田 修史、植村 海宥、山本 憲市、 倉山 美幸、井上 成美、西村 正子、浦辺 長次、 福岡 正司、沢尾 俊和 ※□：欠席者				
議題	1. 開会 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりに向けて（資料1） 3. その他 4. 閉会				
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりに向けて（資料1） 事務局より、資料1を基に素案づくりについて説明し意見交換を行った。 3. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。 4. 閉会				
審議経過要旨	1. 開会 審議結果要旨のとおり。 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりに向けて（資料1） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○この委員会での協議内容を、いつ頃に実施していく計画でいるのか。短期・				

	<p>中・長期でイメージも異なってくる。</p> <p>→委員会での任期は平成28年3月末になっており、具体的には平成28年度から実施していきたいが、先行的に平成27年度中にできる部分があれば取り組んでいきたい。</p> <p>→地域へのきっかけづくりとして、イベント的な事をやってみるのもイメージとしてつかみやすいかもしない。</p> <p>○道の視点でいくと、浄瑠璃寺と岩船寺の区間しか明確な道標が無い。道はあっても案内がない中でどうつなげていくかである。現在の観光パンフ等では、当尾南部地域が中心であり、加茂駅からの動線も分かりづらい。</p> <p>○道は基準を駅にするのか、現地のスタート地点とするのか、どこを設定するかで案内方法も変わってくる。</p> <p>○市が主導でどこまで関わっていくのか、地元にも声を聞く場を設け、そのうえでまとめてほしい。</p> <p>○南山城村 田山での取組では大阪国際大学と連携している。こういった学生を巻き込んだ農業体験を通じて、田畠の管理につなげることはできないか。</p> <p>→同志社大学でも里山保全等をテーマに各所をフィールドにして参加している。</p> <p>○田山の芸術家との取組を当尾でもしたいと思っている。ただし、当尾の郷会館を使う場合は、調整区域のため利用制限がかかってしまう現実がある。</p> <p>→やりたい事は、自由な発想で提案をしてほしい。法的な規制がある中で、どこまでなら可能なのか、幅広く検討していきたい。行政がするべき部分の役割は果たしていきたいが、運用・運営は地元主体でないと継続できない。</p> <p>○2ページのイメージで、主体の優先順位をつけるのであれば、当尾地域が第一であり、できるところからやっていくべきである。</p> <p>○地元のみなさんが楽しくなる、元気になる事が一番大切と考える。</p> <p>○道をテーマにした際の不便な部分を逆の発想で取組提案をしたい。</p> <p>若者も取り込むのであれば、参加体験型リアルゲームなどもある。またみんなで楽しむ視点から、婚活ではないが、合同ハイキングというのもある。</p> <p>スマートフォンを使ったおもしろい取組事例として「Ingress（イングレス）」（※1）がある。岩手県が先進的に取り組んでいるが、ゲーム性を取り入れてイベント・まちづくりにつなげていくことも必要である。</p> <p>(※1) Ingress（イングレス） Google社のスマートフォン等の位置情報交信機能を活用した無料のゲームアプリで、プレイヤーは青又は緑の2つの陣営のいずれかに属し、現実の世界における名所旧跡等のポイントを訪れ、その場で端末を操作することで</p>
--	---

	<p>ゲームを進め、自陣のエリアを拡大していくという陣取りゲーム。</p> <p>○旅の形態も、モノ（名所・商品）ではなくコト（体験）を売ることに変化してきている。</p> <p>○荒れている田を見るのが辛い、農地に花を植え花情報を伝えてはどうか。 ○荒廃している土地より、田だけでなく美しさのある景観を作ることはできないか。四季を楽しむことができる。</p> <p>○イベントはゲーム感覚で楽しめるウォーキング等に取り組んではどうか。 →委員任期中にイベントを行い、運営体制についても形をつくり次の体制に引き継いでいきたい。</p> <p>○市は学研都市でもあるので、研究所スタッフに、ものづくりの視点から農業を楽しんでもらうというアプローチも可能ではないか。福利厚生的な側面も含め企業ともつながりやすいのでは。</p> <p>○文部科学省「日本遺産」をはじめ国土交通省「地域遺産」など、様々な指定等があり、それらに選定されることで地域イメージも変わるのである。 ○地元が協力してもらえることが大前提になってくる。地域のみなさんにも情報提供していきアピールが必要である。</p> <p>○荒れた田畠の景観を少しでも良くしたいという思いで、レンゲ畠に思ったこともあるが、種を購入する費用が高く、何か補助があれば、レンゲは耕すと肥料にもなるので、同調してくれる方も出てくるのではないだろうか。 ○補助を上手く活用できないのか。</p> <p>○大学との連携の中で、フィールドワーク・フィールドスタディというのもあるが、インターンシップ（就業体験）という切り口もあるのでは。</p> <p>○次年度以降の予定はどのようなものか。 →今回の委員会での意見を踏まえフィードバックした案を提示したい。 また、地域の方と接触できる場を設けていきたいと思っている。 更に意見のあった、大学や企業との連携についても、検討をできればと考える。</p> <p>○地域の魅力発信という視点で、2月に京都定期観光バスの運行があった。 観光オフシーズンにも関わらず、ほぼ満席のお客さんがあり、地域のもつ潜在性は高いと思った。</p>
--	---

	<p>○女性は「買い物」「食べ物」が大切な視点であり、バス旅行でもそれらの要素は必要である。</p> <p>○週数回のマルシェの開催や、女子旅という切り口もおもしろいかもしれない。</p> <p>○国の動きとして、廃校等を活用した地域拠点づくりにより、地元活性化をもたらすような取組に対しての交付金が創設された。当尾地域においても、こういった新しい制度の活用も視野に入れながら、取組を進めていきたい。</p> <p>3. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 閉会</p>
その他特記事項	